

令和5年度 学校教育自己診断の結果と分析

【学習指導等】

・授業力の向上をめざし、授業見学月間の設定や研究授業、学習評価等に関する好事例の共有を行った。自己診断結果においては、生徒の「自分で物事を調べ発表する機会がある」「コンピュータやプロジェクターを活用している」の肯定率はそれぞれ 94.4%、95.7%となり、「自分で考える力が身についた」の肯定率は 83.3%となった。(いずれも過去5年間で最高値)また、教員の「教材の精選や指導方法の工夫をしている」の肯定率は 92.6%となり、昨年に比べ 8.6%上昇した。

・協働的な学びの実践に向けて、「総合的な探究の時間」で企業と連携した探究学習や発表を行った。自己診断結果においては、生徒の「発表する力が身に付いた」の肯定率は 82.9%となり、昨年に比べ 3.4%上昇した。一方、「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率は 84.2%にとどまり、昨年に比べて 0.3%下降した。この理由として、取り扱うテーマが本校生徒の状況に十分に合っていなかったことが考えられることから、次年度に向けてテーマや教材を工夫していく。

【生徒指導等】

・生徒の規範意識の醸成をめざし、改めて保護者に生活指導の方針を示すとともに、全教職員での指導体制に向けた呼びかけを行った。自己診断結果においては、生徒の「学校生活について先生の指導に納得できる」の肯定率は 67.5%にとどまり、昨年に比べ 0.4%下降したが、保護者の「生徒指導の方針に共感できる」の肯定率は 74.2%となり、昨年に比べ 0.5%上昇した。引き続き、ていねいな指導を心掛けていきたい。

・今年度はコロナ禍における大きな制約は行わず、学校行事等を行うことができた。その結果、「学校行事等」に関する肯定率は生徒 86.6%、保護者 92.0%となり、昨年に比べそれぞれ 7.0%、6.0%上昇した。

・人権教育については、計画的に行うとともに、事象が発生した際には組織的に対応し、生徒への指導を行った。生徒の「人権教育や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率は 95.5%となり、目標を大きく上回った。